

# ちぐさ 「千種」物語

—二つの海を渡った唐物茶壺

竹内順一（東京藝術大学名誉教授） 岡佳子（大手前大学教授）  
ルイズ・コート（フリーア美術館） アンドリュー・M・ワツキー（プリンストン大学）  
〈編〉

A 5判・284頁／定価：本体 3,200円（税別）【2016年12月上旬刊行予定】

13、4世紀頃に中国で生まれたひとつの壺が、東シナ海を渡って日本に伝わり、16世紀に茶の湯の道具として「千種」の銘を与えられ、名物となった。やがて21世紀にはもうひとつの海、太平洋を渡り、アメリカ合衆国ワシントンDCにあるフリーア美術館（管理運営：国立スミソニアン協会）に収められる——唐物茶壺「千種」の歴史的な変遷を経糸に、「千種」をめぐる多様な文化事象を緯糸に織りなされた、壮大な物語。

日本、アメリカ、中国の研究者による、歴史、美術、考古学、科学などの多角的な分野を網羅する調査と議論が結晶した最新の研究成果を収録。

◎内容目次◎

**I 中国からきた茶壺** 唐物が茶道具になったとき 竹内順一  
／唐物茶壺の展開 李賢平・栗建安（訳：中井淳史）／唐物茶壺 西田宏子／日本における唐物茶壺の考古学 井上喜久男／茶壺の役割——緑茶の味との関係 大森正司

**II 「千種」のすがた** 「千種」 ルイズ・コート（訳：松村真希子）／一六世紀の茶会記に記された「千種」の拝見記 竹内順一／「千種」をめぐる名 アンドリュー・M・ワツキー（訳：常田道子）／「千種」の口覆いについて 吉岡明美／「千種」の口覆いと名物裂・富田金襴 佐藤留実／染料——「千種」に附属する染織品から 毛利千香 プライス・マッカーシー

**III 「千種」、ふたたび海を渡るまで** 「千種」の伝来と唐物茶壺——江戸時代初期を中心に 岡佳子／野々村仁清作「色絵叭々鳥図茶壺」をめぐる 岡佳子／一七世紀以降の「千種」の伝来 熊倉功夫／皓々斎宗也筆「茶壺紐飾雛形書」について 岡佳子／「千種」と国際美術市場 ジュリア・ミーチ（訳：前崎信也 清水彩野）

「千種」関係史料集 茶会記・名物記等／「千種」附属文書／久田家文書



思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-533-6860 fax.075-531-0009  
https://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	「千種」物語—二つの海を渡った唐物茶壺 本体3,200円(税別) ISBN978-4-7842-1870-7			
お名前			tel	本書HPのQRコード	
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	代引(書籍代+消費税+送料400円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担) ◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎				

## ※近世京焼の研究

岡住子著

近世の京焼、すなわち桃山時代から江戸時代末まで京都で焼かれたやきものの窯業的な変遷を、文献史料と出土資料によって明かす。名工たちの陶業を産業としてとらえ、技術の系譜や産業的な展開、受容層のあり方、流通・市場の動向などの視点から京焼陶工の実態やその作風、あるいは京焼の通史を見直した一書。

▶A5判・434頁/本体6,300円

ISBN978-4-7842-1558-4

## 熊倉功夫著作集 全7巻・既刊3冊

熊倉功夫著

分野を軽々と飛び越えて新たなパースペクティブを示し続けてきた著者が、自選によってまとめる。

【全巻構成】①茶の湯一心とかたち/②茶の湯と茶人の歴史/③近代茶道史の研究 以下未刊④近代数寄者の茶の湯/⑤寛永文化の研究/⑥民芸と近代/⑦日本料理文化史

▶A5判・平均480頁/各本体7,000円

## 京都 伝統工芸の近代

並木誠士・清水愛子・青木美保子・山田由希代編

京都における、他の地域とは異なる側面を有する「近代」にあって、美術・工芸がどのような変容をとけて現代にいたっているのか。大きく「海外との交流」「伝統と革新」「工芸と絵画」「伝統工芸の場」の視点から、様々なトピックスや人物にまつわるエピソードを取り上げ概観。口絵・地図・年表や、図版を付し、視覚的にわかりやすく解説。

▶A5判・300頁/本体2,500円

ISBN978-4-7842-1641-3

## 近代の「美術」と茶の湯 言葉と人とモノ

依田徹著

明治維新で価値を落とした茶道具は、どのようにして美術作品として再評価されるようになったのか？千利休と岡倉天心に注目し、近代美術史の視点から、明治以降の茶道具の評価を捉え直す。

【内容】茶道具評価の変容/茶の湯の文化価値の創出/理論整備と作家制作/茶道具の「美術作品」化/「芸術家」利休の誕生

▶A5判・332頁/本体6,400円

ISBN978-4-7842-1693-2

## 売茶翁の生涯

ノーマン・ワデル著/樋口章信訳

本書は、僧臭を脱却して、しかも俗臭に堕ちない禪僧で煎茶の祖とあおがれる売茶翁(1675~1763)の生涯をまとめた初の伝記(英語版)を年代順に整理し、書きあらためた日本語訳版。伊藤若冲や池大雅ら当代文化人を魅了し、時を超え人びとの魂をゆさぶってやまない売茶翁の生きざまや思想をまとめる。

▶A5判・256頁/本体3,500円

ISBN978-4-7842-1845-5

## 茶の湯とイエズス会宣教師 中世の異文化交流

スムットニー・祐美著

戦国時代、来日したイエズス会宣教師たちは、在日中、文化や人々の生活習慣などの情報収集と分析を行い、日本人にふさわしい宣教の糸口を模索していた。その一つが、日本人の間で盛んに嗜まれていた茶の湯であった。茶の湯とキリスト教との関係を、ローマイエズス会文書館より収集した本邦初公開の史料をもとに、詳細に明らかにする。

▶A6判・248頁/本体4,600円

ISBN978-4-7842-1863-9

## 利休の茶の花 いけばなと茶の湯

桑原宗典著

「いけばな」と「茶花」の根源にある共通性を明らかにし、いけばなが利休に与えた影響と、その花に込められていた思想を探る。また、初代池坊専好と利休との交流を、史料を精緻に比較することで描き出し、これまでほとんど論じられてこなかった利休の花の成立背景を池坊の花の流れと共に考察する。

▶A5判・206頁/本体3,700円

ISBN978-4-7842-1837-0

## 中国南北朝隋唐陶俑の研究

小林仁著

始皇帝の「兵馬俑」で知られる俑は、死者とともに埋葬される副葬明器で、中国の南北朝から隋唐時代は質量ともにその黄金期の一つである。本書は、豊富な実物調査に基づいて、膨大な数の資料を造形的特質、様式の変遷、地域性などによって整理し、豊富な図版とともに美術史・陶磁史的視点からさまざまな論点を提示。

▶B5判・438頁/本体13,000円

ISBN978-4-7842-1790-8

## 国宝 油滴天目茶碗と国宝 飛青磁花生

大阪市立東洋陶磁美術館 監修/三好和義 撮影 伝世の名品

■大阪市立東洋陶磁美術館が所蔵する「唐物」の名品のなかから7点を選び、写真家三好和義氏の写真により、その魅力を詳細に細部に至るまでカラーの高精細大型図版で紹介。

■2012年秋に同美術館で行われた展覧会に際して製作された書籍。(初版2012年10月、編集発行：大伸社)

▶A4判変型・64頁/本体1,905円

ISBN978-4-9905-6315-8

## 講座 日本茶の湯全史 全3巻

茶の湯文化学会編

本講座は、日本文化史の中に位置づけられた茶の湯の展開を、茶の湯文化学会が総力をあけて俯瞰する。時代を輪切りにしながら見る本編と、茶の湯の重要な要素を通史として見渡す特論からなりたち、最新の研究成果をふまえた茶の湯を通覧する、まったく新しい概説書。

【構成】①中世/②近世/③近代  
▶A6判・平均340頁/各本体2,500円

## 器を楽しむ 逸翁の茶懐石

逸翁美術館編

2015年に開催された逸翁美術館特別展覧会の展示図録。逸翁愛用の懐石の器に合わせて、時代とともに変遷する逸翁の茶懐石を紹介し、逸翁との交流も深い料理人湯木貞一氏の収集品も収録。湯木氏は一流の数寄者でもあり、その収集品は湯木美術館に収蔵されている。器物114点をカラー図版で掲載。

▶A4判・102頁/本体1,000円

ISBN978-4-7842-1807-3

## ※近代数寄者のネットワーク

齋藤康彦著

茶の湯を愛した実業家たち

高橋義雄、根津嘉一郎、小林一三……。彼ら近代実業家は互いに激しく争う一方で、数寄者として茶会で何度も同席し、財閥の枠を超えた交流が繰り広げられていたことはほとんど知られていない。本書は、『茶会記』のデータ分析を通して政界・官界・実業界を横断するネットワークを描出するものである。

▶A5判・308頁/本体4,000円

ISBN978-4-7842-1603-1

## 織豊期の茶会と政治 【オンデマンド版】

竹本千鶴著

織田信長による名物茶器をしつらえた茶会の場を、従来のようにわび茶の史的変遷の一齣として見ていくのではなく、室町殿中の座敷飾りが段階的に発展した「大名茶湯」として捉えて、中世史の中に位置付け、織田・豊臣政権における支配構造の側面を茶会の場を通して明らかにする。(初版2006年)

▶A5判・476頁/本体9,500円

ISBN978-4-7842-7007-1

## 茶と室内デザイン

小泉和子編

日本にもたらされた喫茶文化により、室町時代の書院造、大名居館、侘び茶による草庵風茶室など、和風住宅の室内意匠がつくられた。茶が日本住宅の室内意匠にあたえた影響について、それぞれの専門の立場からの論考を収録し、豊富なカラー図版とともに、茶道と室内デザインの関係性を考える一書。

▶B5判・224頁/本体3,500円

ISBN978-4-7842-1808-0

## 花道の思想

井上治著

第一部では歴史の流れを概括しながら「出生」(草木の自然な形姿)「花矩」(人為的な意匠)「修行」(挿花を通じての求道)という観点で「花道思想の構造」を整理。第二部では、近代の花道家が新たな社会・文化・学術的環境のなかで、花道文化の伝統とどのように向き合ったのかを「風流」と「芸術」という概念に注目して考察する。

▶A6判・260頁/本体1,800円

ISBN978-4-7842-1839-4

## 船筆筒の研究

小泉和子

近世海運において船乗り達が船内に持ち込んで使っていた収納家具、船筆筒。本書はその成立から終息までを歴史的に考察し、デザインの形成を検証の上、その本質を明らかにする。様式史としてではなく、船筆筒自体を歴史を語る史料として試みた意欲的な一書。口絵カラー4頁・モノクロ4頁ほか本文挿入図版多数。

▶A5判・410頁/本体6,000円

ISBN978-4-7842-1503-4

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年2回無料でお送りしています。  
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。 ※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。